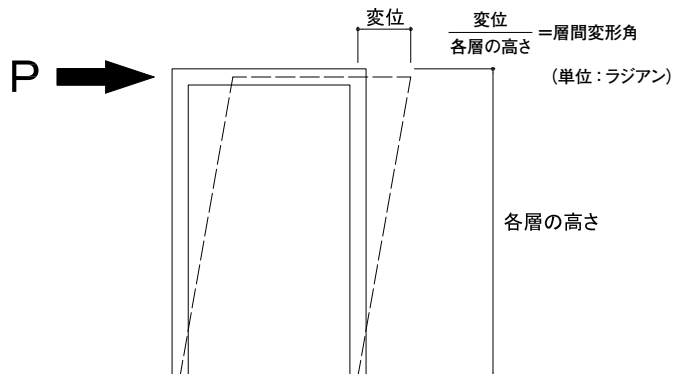


6 鉄骨下地組みの注意点

この施工基準は、弊社標準施工のうち鉄骨造の外壁耐火構造への設計施工を前提とした技術的内容を抜粋し、掲載しています。
本内容と標準施工法の相違点は、外壁耐火構造が求められる場合、必ず本内容に従って設計・施工を行ってください。

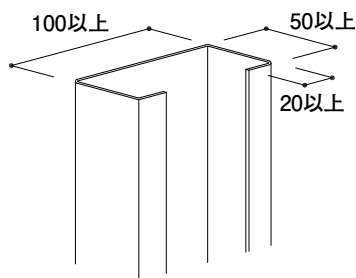
■基本事項

- 建物の層間変形角は $1/120\text{rad}$ 以下で設計してください。
(鉄骨造の層間変形角は、原則として $1/200\text{rad}$ を越えないことと定められていますが、窯業系サイディングで仕上げた外壁構造は、 $1/120\text{rad}$ まで緩和できます)
- モエンを直接柱や梁に取り付ける事は避けて胴縁を使用し、胴縁にモエンを取り付けてください。



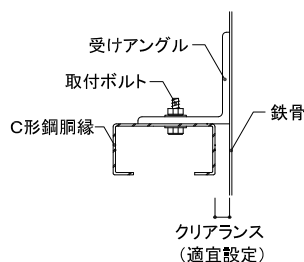
■鉄骨下地胴縁の形状寸法

- C形鋼胴縁の厚みは、2.3mmのものを使用してください。
- 断面寸法は $100 \times 50 \times 20\text{mm}$ 以上を使用してください。また、角形鋼管も使用可能です。



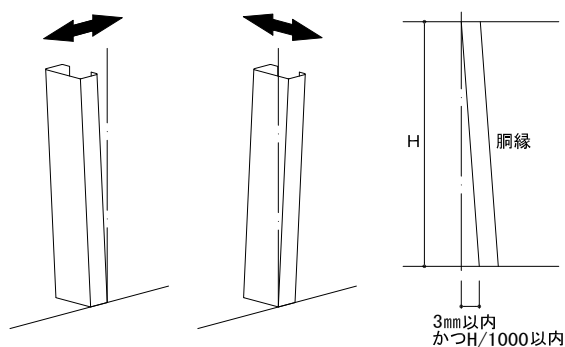
■下地組み寸法と精度

- 鉄骨胴縁は受けアングル(ねこ)又は受けプレートに柱・梁に溶接し、受けアングルにボルト留めしてください。(柱・梁に直接溶接するのは避けてください)。



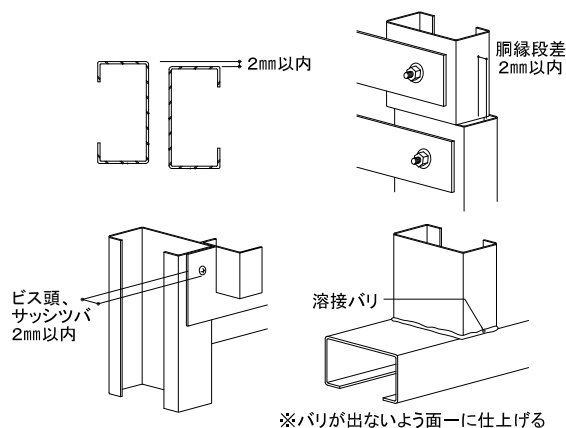
■鉄骨胴縁の立ち

- 3mm以内かつ $H/1000$ 以内としてください。



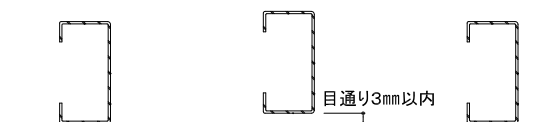
■不陸限界

- 下地ジョイント部のズレと、溶接部のバリ、ビス頭等による不陸は、2mm以内としてください。



■鉄骨胴縁の目通り

- 鉄骨胴縁の立ちや通りのズレは、3mm以内としてください。



■鉄骨胴縁へのビス留め位置

- 鉄骨胴縁へ留付金具を留め付けるビスは、がたつき防止のため、鉄骨胴縁端部より10mm程度以上離れた位置に留め付けてください。

